

一般社団法人製剤機械技術学会

第27回講演会プログラム

テーマ：「 デジタル技術を活用したこれからの製剤 」

日 時： 2018年8月3日(金) 13:00 ~ 17:40

場 所： 慶應大学芝共立キャンパスマルチメディア講堂

総合司会： 丸山 修 (株式会社奈良機械製作所)

13:00 - 13:10	開会の辞	製剤機械技術学会 会長 (あすか製薬株式会社) 草井 章
13:10 - 14:00	特別講演	＜ 座長 ＞ 瀬田 康生 (東京薬科大学) デジタル化がもたらすヘルスケア産業の進化 株式会社野村総合研究所 田口 健太 ヘルスケア産業は数少ない成長領域であり、多くの事業拡大機会が存在する。特にデジタル化は、バリューチェーンの再構築による事業機会の創出や、AI・IoT・RPAの導入による業務効率化など大きい環境変化をもたらすものであり、ヘルスケア産業のさらなる進化が期待される。 本講演では、官民それぞれのデジタル化最新動向や今後起こりうる環境変化を解説しつつ、デジタル化を通じた取り組みに関する示唆を提供することを目的とする。
14:00 - 14:40	講演 1	＜ 座長 ＞ 鈴木 正隆 (パレオコン・マネジメント・コンサルティング) 医薬品産業に求められるデジタルトランスフォーメーション 塩野義製薬株式会社 阪口 岳 デジタル化は世間一般に広く浸透し、瞬く間に多様な場面で利便性共に新たな価値を提供しています。それはITが単にツールとして認知されてきた時代から、人々の価値観、社会自体を変化させ、その結果、ビジネスモデルの変革を引き起こし、IT産業は新たなビジネスチャンスを獲得しています。昨年、トヨタが脱製造業宣言をしたことは、自動車産業自体の危機感の表れとも言えますが、規制産業である医薬品産業も例外では無く、ヘルスケア産業の一角としてその役割が変わりつつあります。本講演では、デジタル化の波が如何に医薬品産業に変化を与え、ビジネスモデル自体を変えようとしているか私信を交えて、ご紹介させていただきます。
14:40 - 14:55	- 休憩 -	
14:55 - 15:35	講演 2	＜ 座長 ＞ 永田 亮 (第一三共株式会社) 服薬アドヒアランスを測定できる世界初デジタルメディスンについて Otsuka Pharmaceutical Development & Commercialization, Inc. 倉橋 伸幸 患者は様々な理由により服薬を継続することができない場合が多い一方で、どのくらい薬剤をきちんと服薬しているかを客観的・定量的に知ることは困難である。大塚製薬は米国Proteus Digital Health社の持つ技術を導入し、世界で初めて服薬アドヒアランスを測定できるデジタルメディスンを開発した。患者あるいは医療者が服薬アドヒアランスや日々の活動を知ることで、より質の高い医療につながることを期待したい。
15:35 - 16:15	講演 3	＜ 座長 ＞ 矢島 稔央 (大正製薬株式会社) 連続生産のシステム導入と生産設備のデータインテグリティに向けた統合管理～デジタル・イノベーションに向けて～ 東洋ビジネスエンジニアリング株式会社 宮澤 由美子 連続生産(生産方式)とデータインテグリティ(規制対応)という異なる観点で注目度の高い2大トピックスは、製造現場(設備・人の操作)で発生するデータに基づく点では共通テーマといえる。またそれらが統合管理されたシステムは、同時に、医薬品製造の現場で、デジタル・イノベーションが、どのように用いられているかを示している。本講演では、同社がこれまで積み重ねてきたノウハウを活用し、未来への展望を議論する。
16:15 - 16:55	講演 4	＜ 座長 ＞ 花輪 剛久 (東京理科大学) 薬物分子の定量的構造活性相関に基づく物理製剤学の情報技術への展開 東京理科大学 後藤 了 医薬品の分子構造は、①生理活性、②体内動態、③副作用/毒性という3つのカテゴリーが一次独立に最適化されています。生理活性では古くから定量的解析法やデータベースの構築も進められました。一方、体内動態や副作用についてドラッグライクネスなどの考え方は提案されていますが、人工知能による機械的判断の試みはなされても、果たして人間にとって「合理的」と見なせる系統化・体系化は手の届くところにあるのでしょうか。その糸口として、Hansch-藤田法定量的構造活性相関を医薬品の製剤学的特性に適用し、製剤設計を試みた例から情報技術への展望を議論させていただきます。ければと思っています。
16:55 - 17:05	- 休憩 -	
17:05 - 17:35	総合討論	講師:基調講演、講演1～4までの講師 司会:花輪 剛久(東京理科大学)、登美 斉俊(慶応義塾大学)
17:35 - 17:40	閉会の辞	第27回講演会 実行委員長 (東京薬科大学) 瀬田 康生